

当面のスローガン

- 本年こそ「人権侵害救済法」を制定させよう!
- 狭山再審闘争の勝利をかちとろう!
- 続発する差別事件の糾弾を徹底しよう!



発行所
解放新聞和歌山支局

〒640-8314
和歌山市神前 405-3
TEL 073-473-2301
FAX 073-473-2302

発行責任者
松本貞次

組織内候補とともに再選!

4月におこなわれた統一地方選挙に、部落解放同盟和歌山県連合会組織内候補として藤本眞利子県連特別執行委員と石本一也県連執行委員が立候補し、ともに再選を果たした。

和歌山県議会議員選挙は、4月3日告示、4月12日に投票がおこなわれ、和歌山市選挙区からは定数15に17人が立候補し、無所属・連合推薦で立候補したふじ本まり子は4期目当選を果たした。

ふじ本まり子は「厳しい結果となったが、多くの皆さんの支援をいただき当選させていただいたことは大変感謝している。新たな気持ちで4年間、県議としてみなさんの声を県政に届け、地域に貢献していきたい」と決意をのべた。

2期目再選をめざし、湯浅町議選に挑んだ、いしもと一也(無所属・連合推薦)は、4月21日の告示日から5日間という短い選挙戦で、定数10に対して13人が立候補する激戦となった。地元を中心にさらに一票、もう一票と支持の拡大



出陣式で手をふる石本一也

を訴え、当選を果たした。26日夜、支援者が事務所前に集まり、選挙管理委員会発表をいまかいまかと待っていたが、ようやく21時を過ぎて当選のバンサイとなった。いし本一也は「地元のみなさんを中心に、短い選挙戦とともにがんばってくれたことに感謝いたします。人権、福祉のまちづくりをめざしてこの4年間もがんばります」とお礼と決意をのべた。



当選して有権者と喜ぶ石本一也



団結ガンパローで再出発した

頑健

旧暦でいうと4月、5月は田植の季節である。4月は「卯月・うづき」、5月は「皐月・さつき」という。「卯月」は「卯の花が咲く月」から

きているという説と稲を植える、つまり「種月」「植月」さらに「田植え苗月」と由来はさまざま。また「皐月」も元来、田植えの月で「早苗月」からきているといわれている。いずれも農耕民族の作業スケジュールにかかわってのことだ▼さて、最近、テレビをよくみる。「以前からだ」と言う声もあるが、さて、朝ドラであるが「ごちそうさん」「花子とアン」そして「マッサン」に連続して共通する場面があった。それは、いうまでもなく「戦争」である。戦場ではなく市民の日常のなかに入りこむさま、そして、生活や周りの人びとの運命を蹂躪していく状況が描かれていた。戦争を知らない世代である私もそうした場面をつうじて、あらためて「戦争」の意味を考えた▼今朝もテレビで国会の予算委員会の状況が放映されていた。昨年4月の「憲法第9条」にかかわる閣議決定に論議が集中していた。実は、70年前の話でも、朝ドラのこともなく、否応なしに「戦争」が現実味を帯びてきている世情である▼私たちは、争いことは本位ではないはずだ。自然とともに生き、畏敬と寛容の精神が大事にされてきた。平和が一番である。

(S・I)